'04 のべおか 第九

のべおか第九だより（第340号）
2004年7月17日（土）

○発行　のべおか「第九」を歌う会
○事務局（延岡総合文化センター内）
882-0852 延岡市東浜砂町611番地２
電話（0982）２２－１８５５
http://www.horita.jp/dai-9.html

---- 出席カードには会員番号を。練習中のケイタイ着信音はオフに。----

練習の区分

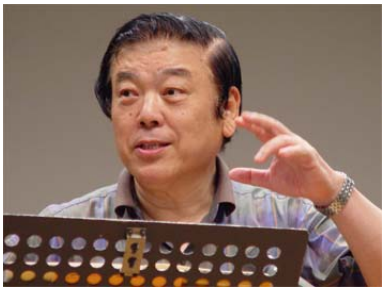
A・Bを中心とした練習

◎ A（237～330小節）p.9～17
◎ B（411～654小節）p.20～33
－ C（655～762小節）p.34～43
－ D（795～920小節）p.46～58

12月11日まであと147日

前回の練習	会員数	出席数	出席率	自己採点
◆ ソプラノ	37 人	25 人	67.6 %	56.8 点
♥ アルト	72 人	54 人	75.0 %	60.8 点
♣ テノール	22 人	16 人	72.7 %	53.1 点
♠ バ　ス	26 人	17 人	65.4 %	61.4 点
● 合　計	161 人	112 人	69.6 %	58.4 点

先日の直接指導から…



@長井先生の指導（7月4日）

その付近の注意…●総合・◆ソプラノ・♥アルト・♣テノール・♠バス
その部分の注意…○総合・◇ソプラノ・♡アルト・♧テノール・♤バス
★…お話
（ほかのパートの注意でも関連があります。全部読んでください。）

★ 237 【お話し】こんばんは、なつかしい方と今年初めての方といらっしゃるようです。さて、「第九」の精神性というものは“神のもとにひとつになりましょう”ということでありますので、我々が、僕自身もコーラスをやるときに目指しているもの、ハーモニーの精神性みたいなもの、メンタルハーモニーです。

　でもおそらく次の日曜日の選挙には、“この党に入れる人”と“この党に入れる人”と…バラバラにここにはいらしていると思うのね。でも「第九」をやる瞬間だけは“ひとつ”になりましょう。そういうことがコーラスの良さだと思います。ぜひがんばりましょう。

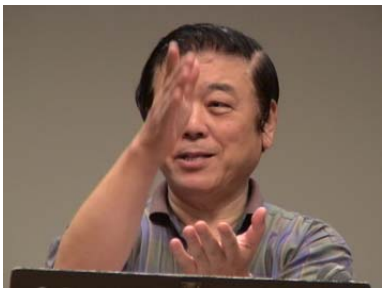
　去年もこの早い時期に伺ったんですけど、本当はある程度みなさんのこちらでのレッスンが固まってきたところにやってきたのがいいのかもしれない。例えば僕が国立音楽大学在職中に、僕のクラスの混声合唱がNHK交響楽団と年末の「第九」を演奏するときなんぞは、さんざん何十回も練習したものを本番の大指揮者が指導する。そしてほめてくれるんですけど、内心はわからないのね。つまり何十回もやっちゃったら合唱団は僕流に固まってるだろう…と。何か言ったにしても学生たちの喉がそういうふうに記憶しちゃってて、かえって学生たちも混乱しちゃう。もっと違うことを、違う歌い方、まったく逆のことを言われてしまったら…でも、今までそのことで30年の間で「こんな合唱では演奏できない!」と言われたことはなくて、「ここまで仕上げてくれていてありがとう」と言われるばかりですが、それは本音かどうかわからないですよ。

　私もここに10月ぐらいに1回突然うかがったほうが、みなさんのほうがある種の仕上がりがあるのかもしれないんだけども、でも「とってもすてきです。がんばってね…」というのもないのかもしれないので、【今のうちに】うかがってやっていた方がいいんではないかなと思って参りまし

た。今までの練習回数も少ない事も聞いておりますので、それに対応したやり方でやりたいと思います。

○ 238 【Freu-de!】なんかぁ～刺身のツマみたいに歌わないで（笑）。僕が刺身で…（笑）。去年も一昨年も言った。遅れてる!!…ソリストの音を聞いちゃうから。…胸の動きが遅れてる!!…“チャンチャンチャンチャンチャンチャン…”の次のチャンの時に“Freu-”のどこが合えばいいんですか?…“ロ”が合わなきゃいけないでしょ。皆さんは“フ”を揃えちゃう。だから遅いの。……僕は皆さんの胸の動きが見えてるんだ。…ご指導の方、遅れてますからね、これも課題です。“Fr”は前!!。

★ 238 【お話し】ここの前まではベートーベンが作詞した歌詞です。フリードリッヒ・シラーが作った詩ではありません。ここの歌詞は「おぉ友よ、この音ではない。」なにがこの音ではないのかというと、“歓喜”ね。フリードリッヒ・シラーが作った詩はものすごく長いものです。ベートーベンがおいしいところだけいただいてつなぎ合わせちゃった。フリードリッヒ・シラーが、上の階級と下の階級をぶち破って一緒にしようとしたフランス革命を題材にあのようにドイツもならないかな…そのときにドイツには貴族社会がまだ厳然としてあったわけですね。



● 257 【Dei-ne Zau-ber～】 この直前までのバリトンのソロに対してみなさんの合唱が臆している感じがするのね。“…wo dein sanf-ter Flü-gel weilt.”って聞いて歌うから、出遅れちゃうんです。オンタイムでね。物理的にチャンと算数でいきましょう。バリトンソロが終わったのを聴いて用意をして…というやつだと出遅れてしまいます。

○ 257 【Dei-ne Zau-ber】 毎年ここに伺って、いつも最初に聞く部分なんですけど、「ダイネェ～ツァ“ー”ベル」って聞こえますから、「ダイネェ ツァ“ォ”ベル」“ツァゥ”じゃなくて“ツァォ”。“u-”だからって“ゥ”って言わないで。
　“ツァー”って“ァ”を伸ばしすぎると“ォ”が遅れますから。遅れるというより言えなくなっちゃうから。“ツァォ”って速く言えるようにして。10月に伺ったときに楽しみにしてるから。

★ 257 【お話し】これはテノールさんがとっても大変。テノールさんの責任＝ベートーベンの責任。この「第九」を作曲するとき、ベートーベンは完全に耳が聞こえていませんからね。

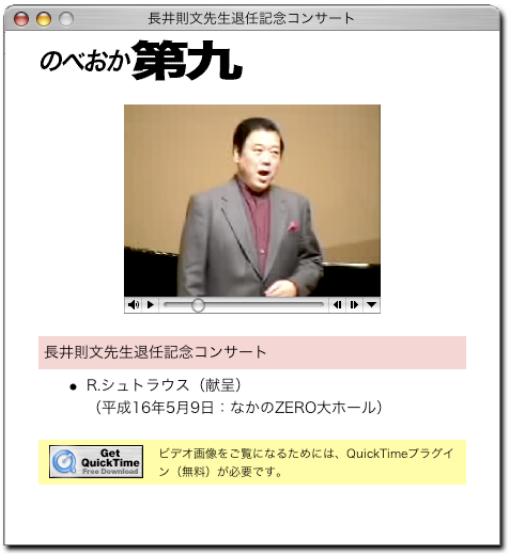
♧ 260 【streng ge-teilt; al-】 テノールの方、“Dei-(257)…ge-(260)”と突然高くなってるでしょ。ところが本当は“ge-teilt;”(-teilt;強く)なんですよ。“ge-teilt;”(ge-強く)じゃないんですよね。ベートーベンが突然そこを高くしちゃったのが彼の責任。歌うがわは“ge-teilt;”(-teilt;強く)と思って。高いから許されて爆発しないで。

○ 260 【streng ge-teilt; al-】 “streng”って単語、“ge-teilt;”って単語。皆さんはくっつけてますよね。でも歌うときも、今発音だけしているときも“シュトレンゲぇ～タイルト”って言ってます

よ。誰がそうしていいと言いました?…いや、笑わないで!!…誰が言った??…誰がそうしていいと言いました???…指導者?…いつの間にか?…ベテランの方たちは毎年参加してらっしゃる!…そうすると新しい人たちが（ここは）そうなんだと思っちゃって、疑問を感じないでそう言っちゃいます!!…だいたい伝統というものはそういうものです。いつの間にかそれが伝統になっちゃうんです。
“シュトレンゲぇ〜タイルト”じゃ、“g”が1つじゃないですか。“g”は2つあるんです。

それはどうしたらいい??…かといって“…グ ゲー…”ってわけにはいかない。でも詩としてはそれが正しいんですよ。…どうしたらいいかというと、たとえば“日本”というのは“にっぽん”って“っ”が入りますよね。そのとき“Nippon”と“p”は2つですよね。それがヒントです。“…グ ゲー…”の間に“っ”を入れるような要領で“間”を入れて。
毎年、言葉の意味みたいなもののお話もさせてもらっているんですけども、ここの“streng”てのは“厳しく”って意味ですからね。はっきり発音が欲しいんです。“ge-teilt;”というのは“分ける”。…何でしたっけ?…何を分けるんでしたっけ??…時代がね、貴族社会と平民を厳しく分けちゃった。それを今、神のもとにひとつに分け隔てなくしましょう。フランス革命のように。…シラーの詩です。フランス革命のように貴族を崩壊させて平民とのバランスをとりましょうよ。“厳しく”“分けた”ものをひとつにしましょう、神の元に。そのひとつにしてくださるのが神よ“あなたの魔力”、“Zau-ber”(257)。だからここの“streng ge-teilt; ”の発音はちゃんと欲しいんです。
“streng”と“ge-teilt;”のあいだ、もっと間がとれないだろうかな。
そして“al-”が遅れないように。“-teilt;”の“ルトゥ”という語尾は喋らなくてはいけない。アウフタクトで“アー…”は出なければいけない。そこは三重苦ですから。でも“アー…”は印象深くね。

★ 260 【お話し】水曜日だったか、浄土真宗、築地本願寺でボイストレーニングをやってきたんです。袈裟を付けたお坊さんがズラーっ。ご依頼を受けたきっかけは、僕の5月にあったコンサートに僕が1分50秒だかソロをさせていただいたんです。それを聴いていたお坊さんがひとりいて、そのときは背広でいらしてらっしゃったそうですけど、僕が昔、指揮をしていた大学の方とお知り合いで。まず、今歌ったあの人が65歳と思ったそうなんです。そして日常集まる住職たちも65歳前後がたくさんいる…お経を聴くとあんな声が出てない。で、築地本願寺では6月末に夏期講習会みたいなお坊さんの集まりがあるというんです。そこでボイストレーニングをやってくれないか…と。コンサート直後に電話を受けまして、お引き受けしていいかわかんないんですよ（笑）。お経をあげるためにふさわしいボイストレーニングなんて、どんなもんかわかんないでしょ（笑）。そしたら法話、お説教の声の出し方も頼まれて、それで伺ったんです。「20〜30人は集まると思いますよ」と聞いていたら、130人いらっしゃるの（笑）。ボイストレーニングというものを受けてみたい、初体験だからということで、東京都内、神奈川県、埼玉県あたりから住職さんたちが集まって…。20〜30人だと個人的指導もできるかな、と思っていたんですけど、130人



だから無理。

それで僕はこんなことを聞いてみたんです。「僕は西洋音楽をやっています。声楽をやるには腹式呼吸だと教わりました。皆さんの中で腹式呼吸という言葉を聞いた事がある方?」と尋ねたら、ほぼ全員が手を上げました。「じゃ、お経を腹式呼吸で…ということをどなたかに言われたことがある人?」と尋ねたら、これもほとんど全員が手をあげました。前の方に聞くと「父親から言われました」「龍谷大学の大学院を出るときに言われました」と言うわけです。「じゃ、腹式呼吸とはどういうことなのか、前列の方?」と問いかけると、「このへん（腹）に息を吸う…」「おなかに息を吸う…」だいたい最初の意見にみんなが揃うようですね（笑）。言いたいときには全く違うことを言う人がいることもあるんだけど、ほぼ“お腹に息を吸う”。「お腹っていうのは“胃”とか“腸”ですか?」そうすると「…??」ってなっちゃったのね。「“お腹が痛い”というのは“肺が痛い”ってことを言いますか?…“胃”とか“腸”が痛いときに“お腹が痛い”って言いませんか??…ということは、あなたの腹式呼吸は吸った息が“胃”とか“腸”に入るんだ!?」（笑）。そこから腹式呼吸というものの認識が違ってきたんです。あとの休憩時間で目から鱗だと言われました。「そうではないんだよ。吸った息は“肺”にしか入らないんだよ。…肺にいっぱい入れたら“胸式呼吸”じゃないか!?…今、肺に入れる呼吸をします…そして肺にたくさん入れる腹式呼吸をします…何が違うか??」最初の呼吸は“胸いっぱい”に吸いました。このときに横隔膜という肺をささえているものが全く影響を受けていません。後のは、肺にいっぱい吸いました。横隔膜は肺がいっぱいになったもんだから、下に押し出されてウエストのところにその影響が出て来ました。…腹式呼吸です。それで「“胃”に息なんて、今日から思ってはだめですよ。」と。まずそういう間違い。

●正信偈（原文）

帰命無量寿如来　南無不可思議光
在世自在王仏所　覩見諸仏浄土因
建立無上殊勝願　超発希有大弘誓
重誓名声聞十方　普放無量無辺光
清浄歓喜智慧光　不断難思無称光
一切群生蒙照護　本願名号正定業
成等覚証大涅槃　至心信楽願為因
唯説弥陀本願海　五劫思惟之摂受
能発一念喜愛心　不断煩悩得涅槃
如来大悲短一味　必死滅度願成就
貪愛瞋憎之雲霧　常覆真実信心天
雲霧之下明無闇　獲信見敬大慶喜
一切善悪凡夫人　聞信如来弘誓願
是人名分陀利華　弥陀仏本願念仏
信楽受持甚以難　難中之難無過斯
中夏日域之高僧　顕大聖興世正意

（後略）

それからもうひとつお話をするとね、今度はお経をあげてもらったら、正信偈（しょうしんげ）というお経でした。いただいたお経のテキストではたまたま字が横書きにしてあったんですけど、漢字が7文字ずつなんです。7文字というのは僕が西洋音楽やっている感覚では割り切れない。皆に唱えてもらったら、最後の7文字目が2拍なんだ。「最後だけ2拍の間をとるということを、あなたは自分の気持ちでそうしているんですか?」と伺ったら「親父に習いました…」「じゃ、親父に習わなかったとして、7拍でやってみて!」と言うと皆が嫌だというのね。僕は7拍と8拍では人間のテンポの営み上、大違いだと思うの。7は割り切れない!

どうしてこういうお話をするかというと、“何も不思議に思わないで、親から子へ伝わった”これ、口承といって、能・狂言・お謡とかがそうですよね。何百年前から今を比較すると、いびつになってもの凄く違うかもしれないけども、そこがひとつの世襲の悲しいことでもある。理屈抜きに覚えさせられちゃうんです。そこでもって8拍の意味、振り子がふれるような動きのお経を、突然ワルツのテンポで読もうものなら（笑）凄く嫌でしょって。息づかいと合わない、呼吸をワルツでやってますか!?ってこと。やっぱり人間の鼓動は時計の振り子のように…。キリスト教の哲学、ドイツ語なんだけど“運命のものさし”というのを話しました。日本語に置き換えると“逃れられないテンポ”、普段は聞こえてないですよ。時計の振子の音なんてこういうところでは聞こえてないです。心臓の鼓動と同時に時は進んでいるんです。一定のテンポで進んでいますよね。生きとし生けるものはこれから逃れられない。このテンポをワルツのように感じている人はいない。やっぱり

2拍子なんです。どうしてこの話をしたかというと、さっきの“シュトレンゲぇ〜タイルト”なんの不思議もなく10年選手も20年選手もおそらくあまり疑問に思わず“シュトレンゲぇ〜タイルト”とやってらっしゃる。だからこの時にね是非お願いしたいことはもう一度譜面を見ていただきたいということです。

延岡の人に対して、あんまりアクセント、イントネーションの話をしたらダメよね（笑）。うちの嫁さんは延岡の出身だけども、耳が悪いのかハートが意固地なのか、還暦過ぎてもずーっと延岡イントネーションです。2文字はまずダメね。だいたい逆ね。雨?飴?、橋?箸?…そういう言葉になると彼女は混乱しちゃうんです。延岡の人、そうでしょ?ホントはどっちだかということがわからないし、そういうことがあるでしょ。

○ 262 【wer-den Brü-der,】 みんなが“Brü-der,”(兄弟)になって。あとでメインテーマが出て来ますね。そこにも影響しますから。“wer−den”が頂点ではなくて、“Brü-der,”が頂点。なんという意味でしたっけ?…兄弟ね。人類みな“兄弟”という意味ですから。そういう意味の兄弟です。あとのメインテーマのところもなかなか“Brü-der,”に力が込められないんですよ。特にソプラノさんはこの前が高いからね。ホントは“Brü-der,”が大事。

● 284 【Ja,〜】 ちょっとバリトンの方、合図と同時に“ヤー”って出てきて。…あのなんていうかな、ちくわみたいな声なんだ（笑）。芯がないんだ。僕の方が芯があるね、ひとりなんだけど。65歳!（笑）。でも悲しいかな、すぐ“wer”って下に降りなければいけないですよね。そのことをまだ恐れないで。“Ja,”という音が永久に飛ばせるという意識でここは出てね。

（出足が揃わず）オッちゃん達、頼むぜ!（笑）…あのね、明るすぎるの。“やぁやぁ遠からん者は…”（笑）。

なにが“Ja,”なんですか??…去年も聞いたはず。少しはわかってる?…意味は“そうだ!”なんですよね。なにが“Ja,”なの?…わかってないから“やぁ〜”なんだ（笑）。楽譜の後ろに書いてあります。ソリストが言っている言葉に“そうだよ!”ということです。その前に皆さんが“Dei−ne Zau−ber…”って歌ったじゃないですか。“あなたの魔力が…富める人と貧民の2つに分けていたのを、今あなたの力でひとつにしてください。”それからソリストがある文句を歌います。そのソリストの言っていることに対して“Ja,（そうだ!）”なんです。だからソリストたちが歌い終わらないうちに早々とバスが“Ja,”と出てくるわけよ。ちょっとカブってるでしょ。その先に言っているのを粋に感じて歌ってください。“そぉだ、そぉだ…”はダメ（笑）ね。

これから後、“Ja, wer auch nur…”と歌う全般のところの凄く大事なところなんです。“Er−den rund!”(288)は“地球”という意味なんです。この前の合唱の部分で「神様の柔らかい羽のもと、庇護のもとに、分かれていたものをひとつにしましょうよ。」と歌うと、そのあとソリストさ

ん達がいろいろ歌うんです。そして“そぉだよ!”「皆がまとまろうとする営みの中に加われない不埒な奴は、泣きながらこの輪っかの中から去ればいい…(wei-nend sich aus die-sem Bund.)」この場合はキリスト教というひとつの宗教だけども、その“Ja,”です!!
　一番自分で（暗いという意味じゃなく）芯のある声で。

● 291 【wei-nend sich aus〜】 “wei-nend”の“バイネント”って歌っているところ。僕は今、ウソを発音してるんですよ。“バ”って今、唇を弾いてるんですが“w”です。
　“w”と“b”の違いは?…“b”のほうは唇が閉じて破裂するじゃない。“w”のほうは“w”の発音をしようとする直前に“ヴァ”っていう長さがあるんです。“wei-nend”(泣きながら…)。これを“w” って発音しなくて“b”と言っちゃったら何でしたっけ、意味は??
　アイスバインというドイツ料理を食べた方、おられますか?…いらっしゃる!…おいしかった?…量が凄いのね。なんとね、豚の“すね”なんです。アイスバインは豚のすねが関節の上下つきで硝石と塩で茹でてあるんです。油をほとんど抜いて皿の上に“ドカ〜ン!”と出てくる…。その“すね”が“バイネント”なんです（笑）。なんで皆さんの発音ではこんなところに“すね”が出てくるの（笑）??…“泣きながら立ち去れ…”というところに“すね”がどうした?ってドイツ人が聞いたら思うよ。日本人が聞いたら知ったこっちゃないけどね（笑）。般若心経の一語一語がわからないのと一緒でね、我々仲間が聞いてくれるぶんにはいいけども、いくらかでも歌詞を正しく…ね。そのぐらい直るでしょ!!
　この前に“steh-le”って指針があるからちょうどいいや。“シュティーレ”“ヴァィネント”ってどちらも伸ばす。

◇ 291 【wei-nend sich aus】 ソプラノ、凄く愛してあげる!…じゃなくて愛させて!!（笑）。凄くいい!!!今の“wei-nend”が。こっちより群を抜いて凄くいい。ドイツ人もほめてくれる、そこの場所だけ（笑）。

♡ 313 【Küs-se gap sie】 “gap”は“ガブ”じゃなくて“ガプ”。それは“与える”という動詞の過去形で、このあとに母音がついたら“ガブ”なんだけども、ここは“ガプ”。

♣ 313 【Küs-se gap sie〜】 テノールさんね、ここ、ベテランの方も新しい方も、どうもここが歌えてるんだか歌えてないんだか??…たぶん歌えてないんじゃないかな!…とかね。音程。それをそろそろ…今、僕がそこを音とりして差し上げるということは時間的にもったいないから、自分たちの問題提起としてここでご指導くださる先生に「集中的にやってよ!」ってお求めになってください。放ったらかしとかないで。
　特に難しいのは、“Wol--lust ward dem Wurm ge-ge-ben,”(316〜318)のところが個人的にチャンと歌えているかどうか。まず、正しく歌えているかどうか。歌えてなかったら、一人で自力で回復するのはなかなかだから、みんなの集団で「ここの練習をしてください!」と。15分居残って練習するとか、なんとかして…ここは克服してください。

● 313 【Küs-se gap sie〜】 堀田さんがヒョッとしたら、「先生、毎年アレを言う筈なんだけど?」って思ってるでしょう。“Küs-se gap sie”。毎年ここくぁ“キュゥ〜セェ〜”って聞こえるよ…って。だけど直らないかなと思っては母は。直すつもりがある?…じゃまず間違いを言ってみてね。
“キュゥーセ”じゃ短くするよ“キュッセ”。これは間違いです!!“セ”に入る直前が“ゥ”になってるから。…正しくやりますよ僕が。“キュフーッセ”（←カタカナで表現難：堀田）
　アルトとベースは4分音符ですから比較的やりやすいんです。ほかは動くから“キュゥ・セェ”

になっちゃうんです。
　アルトとバスは4分音符2つずつだから、つなぎになってあげないと。10割ソバみたいだ（笑）

○ 313 【Küs-se gap sie】 さっき、歌い出すタイミングで“パン!”と手を叩きました。でも本番ではありませんよね。でもあるつもりで“Kü…”が欲しいんです。

【お話し】大学なんかで在校生の数がだんだん少なくなってきています。N響との年末の「第九」はいつも220人でした。でもだんだん少子化でクラスの人数が少なくなっていますからどうするかというと、卒業生たちのUターンをするんです。それでも「帰って来たの、よくぞ…ありがとう、ありがとう!」ってじゃないんです。テストをするんです。「僕は10回以上もN響に出てる。」といっても、もう一回テストです。まさにチェックをしないとね。なんとなく慣れっこじゃダメ。ここの部分をテノールがやるの。歌えないよ、一人で!!…なかなか一人では歌えない、そういう場所です。こことあとずっと後ろのほう、899小節からの部分もなかなか一人では歌えないところです。でもそこを一人でテストするのはあまりにも残酷だから、ここのテストをしてたのです。

● 321 【und der〜】 ここはスタッカートだけども、長い音符に“・”が付いているときはそんなに露骨に“ウン…デェ…ケェ…”じゃなくバウンドするように。僕はそっちの方針なんです。でも本番指揮者と僕が打ち合わせているわけではありません。本番指揮者はどう言うかわからない。もし違ったら「そんなことを言われても!?」という顔をしないで、即!その人に応えてあげるように。

● 322 【Che-rub〜】もうちょっと“Che-”を“ケィー”に近く。これは毎年お願いしていて、諦めている部分もあるんだけど、“steht”は“シュティート”って言ってるでしょ。“シュテェート”って言ってる?…なんでそれを“シュティート”って言ってるの??…そう言うふうに決まってるから???…それがさっき言った本願寺なんですよ。「親がそう教えたんだから、もう理屈ないの!!」…ではなくて“長母音”だからですよね。だったら“ケィールプ”も長母音ですよ。“Che-rub”は長母音だけど“ェー”??!…“steht”は長母音だから“ィー”!!?…長母音だと思っている人はまだいいんだけども、なんだかわからないんだけど、まわりが“steh-le”を“シュティーレ”と言ってるからとか、“シュテェート”のはずなんだけど“e”を“ィー”とまわりが言ってるからって特に新人さんなんかそうだと思うのね。なんでここは“ケェールプ”じゃないんですか?…なんで“ケィールプ”なんですか??…となりの人に聞いたら、「さぁわかんない!?…前からそうなのよ?!」って先輩が言うかもしれない（笑）。そういう雰囲気ってのは良くないのかもしれないね。
　僕がお願いしてるのは最低点のことなんです。ゆっくりの所だから言えると思う。もの凄く速いところで要求したら喉が動かしきれないかもしれないけど“ケィールプ”って言ってくださいね。

♡ 324 【Gott, steht_】 アルトさん、この“steht_”が誇らしげでしょ。そしてフーガの“Seid_”(655

～)って出るところ。いくつかあるのよ。たまには花を持たせないと（笑）。

● 324 【Gott,～】 “tt”(326・328・330)の発音を忘れないで。ピアノ伴奏だとその感じがわからないけど、オーケストラだとここは弦楽器が激しく弾いている場所で、“tt”なんか消されてしまうんです。そうするとお客には“ゴー…ゴー…ゴー…”しか聞こえない。だから“ーォットゥ”。前の列の人につばきがかかるように（笑）。

◇ 325 【steht vor】 …で、こっち（ソプラノ）が発音が負けてんの!…ここの“steht_”はアフクタクトで入りやすい、有利な条件なんです。だからソプラノはいっぱい待ってて“steht_”。“ソ”のシャープだから高いけどね。

○ 330 【Gott.】 最後を切るときに、本番の指揮者がどのぐらいかということ。きっとお客が入った本番をやるときが一番長いんではないかと思う。みなさんはヘロヘロにならないで。ここ切る前に“オー”と言っていると、切るときに“tt.”しかないんですよね。だから切るときに“ーォット”って思ってね。そうすると語尾の“tt.”のエネルギーがしっかりします。

かなりドぎつい“ゴ”の発音をしてね。“ンゴー”って喉を痛めないようにと柔らかく言わないで破裂させてね。“vor Gott.”（神の前）。

あのね、ヤケ起こさないでね（笑）瞬間湯沸かし器にならないように“ゴーーォット”。ダイナミックさが欲しいんですから。

この場所で歌い終わったときに乱れた髪なおす人がいる。次の音が出るまで微動だにしないで。できたら息も止めたいぐらいだ（笑）。次は何ですか?…トルコマーチですね。そこに移り変わっていく調の関係で、オーケストラと客席の空気は動いてはいけないんです。

○ 411 【Lau-fet,】 “Lau-get,”男性、直前にテノールソロが“…eu-re Bahn,_”ときますが、その伸ばしている間に“Lau-”って入りますよね。“Freu-de”のときのようにちょっと交錯、重なる部分がありますよね。そのときにやっぱり“L”が遅れるんですよ。最初は“La” ですよね。でも1拍目のときに“a”と来たいんですよ。その前に“L”があるでしょ。ソリスト聴いちゃってるから“L”の発音が遅れちゃうのね。“a”を合わせようとしてステージに立つ人間としては単に“ラ”じゃダメなんですよ。それがもしも台詞だったら、客席に届かないんですよ。だから“…ゥラ…”「おぉ、あそこにいるのは…ゥライオンぢぁないか!」というような要領で。

○ 417 【Held zum_】 “ヘーェルツッム…ヂーィゲェン”。“…ツッ…”。“ヘルツム”って言わないで。“Held”の“d”はどこいっちゃったの?。どっか行っちゃったじゃダメだ。421小節もそう。

★ 418 【お話し】ここはベートーベンが男性に歌ってほしいと。“Sie-gen,”勝利に向かって!。この“Sie-gen,”は競馬が当たっても“Sie-gen,”です。勝利者。1等になった馬も馬主さんも、騎手も、馬券が当たった人もドイツ語では“Sie-gen,”です。馬券はどうでもいいんだ（笑）。“勝利に向かって勇者の如く、人生のレールの上を走れ!”と。今どきは違うかもしれないけど、やっぱり男性の声ですよね。

○ 426 【freu-dig】 ここでソリスト、バリトン、テノールが一緒に“freu-dig”ってなりますよね。このとき一番巻き舌をしてほしい。たくさん“fr”を言ってください。全部しっかり巻き舌をするということは、平らになることだから、お客は感動しないですよ。「ココだーっ!!」ってとこを感動するんですから。

○ 427 【wie ein】 ここは前（416・419）の“wie ein”と違いますよね。つながってない??…ちゃんと違って歌って。

○ 543 【Freu-de,】 さっきの“Lau-”よりももっと前に出して。さっきの“Lau-fet”の“L”は子音が1つだった。ここは“Fr”と2つもありますから、たくさん前に出して。それと、暗譜をもう一度確認されて。sfがどこについているのか…“-ly-”(549)“feu-”(553)“Hei-”(557)についてますよね。そして“Bru-”(570)ここが問題なのは、ソプラノさん、直前の“wer-”(569)が高いのでここが強くならないように。メロディが下り坂になったときにsfがついています。

　これ、本番のときに僕も合唱団の一員だったらそうだけど、120%でうたわない?…ところが歌い出しはfひとつなんです。“al-le Men-schen”(566〜)でf、2つなんですよ。区別なんかしてる??!…最初120%で出て、ここから200%にするような人、いる??（笑）。ベースさん、（(566〜)）ぜひそうして欲しいんです。ベースだけ音程が高々に上がっていくんです。それでf、2つにした合唱団の気持ちを聴衆に伝えたい。「最初はf、1つですよ。途中からf、2つですよ…」なんてみなさんできっこないんです。オーケストラが激しいし、指揮者は煽ってるし…行くよぉ、もう1回!!

★ 543 【お話し】糸井先生、ちょっと前から弾いてくれる…(529〜)ベートーベンは首をよこに振っているんです。…(535〜)…これでもない…（541〜）…これだよ!!…そう思って。「友よその音ではない」それで2番目の音は最初より悲しくなっちゃうんですよ。3回目で（笑）。これはね、調子に性格が与えられているんですよ。ここはロ長調が最初なんですよ。そしてロ単調、3番目はニ長調。古今東西の作曲家がある性格を持った音楽を書いたときに、歓喜とか誉れ高いとかというものはニ長調が圧倒的に多いんです。まさにピッタリ、ベートーベンは歓びの表現としてニ長調をご指名したんですね。

● 544 【schö-ner～】 “schö-ner Göt-ter- ” “ö”でしょ。これがほとんど“ェ”って聞こえる。この作曲家“ゲーテ”ってカタカナで書いてあるじゃないですか。でも綴りを見ると“Goethe”って書いてあるんです。今日の発音で“the”は“テ”と“h”はサイレンとで発音しません。それで“Goe”は昔、タイプライターでウムラウトが出せなかった時代の綴りなんですよ。今は“G嗾he”。我々はそれを“ゲーェテ”と言っているです。今、ヨコモジを持たない我々はドイツ人の発音をまねたいわけです。だから“schö-ner Göt-ter- ”の“ö””は“ォ”と“ェ”の中間で。…ソプラノさんは特にそこは音が高いから、“シェーネル・ゲェッテル”になりそうだから12月までは、うんと口を閉めて。

○ 546 【fun-ken,】 ソプラノ以外の人、“フン-ケヘン”。歌うときに“ヘン”って言ってください。“ヘン_ト…”と続ける。ソプラノは“ケーン”って伸ばしますよね。アルト以下は音が2つに分かれています。“ケ～ェン”じゃなくて。“h”の発音を入れないと、客席に届かないんです。

○ 549 【ly-si-】 “ゥ”。“y”という母音（子音ではありません）は、“ü”です。
“エリゥージ…”で、“ジ”に関しては、随分のパーセンテージで“ji”って聞こえるの。入れ歯のせいだから、しゃぁない（笑）。

★ 549 【お話し】ミサの曲“Kyrie eleison Christe eleison”で“キリエ”は“Ky…”です。ドイツ人たちは“キゥリエ”です。だからカラヤンさんなどが指揮したCDのミサ曲は“キゥリエ…”と入っています。だけどN響の音楽監督で昨年まえいらしたシャルル・デュトワさんはフランス人ですから、これが“キィリエ”です。彼が「第九」やったときは盛んに“エリィージウム”でした。要求してたわけではなくて、口ずさんでいました。だけどドイツ人がN響の「第九」を振ったときは“エリゥージウム”でした。だから皆さんもせっかくベートーベンの曲なんですから。

● 551 【wir be-～】 “w”と“b”ですね。だから“ビィルベェ～”とかじゃなくて“ヴィルベェ…”

● 595 【Seid um-〜】 ここからは男らしい声を出して。
★ 595 【お話し】僕の今日の指導は駆け足の感じなんです。この部分の指導で本当は数日過ごしたいぐらいです。そんなわけにはいかないので、これで今年の前半は終わりにします。10月に来たときは、トータル、全体を聴かなくてはいけない。後半が大変だ（笑）。新しい方、暗譜を恐れないでね。これはズルをしなさいというわけではなく、大人数で歌うときには1人が70〜75%暗譜ができていると100%に聞こえるものです。80〜90%あいだを間引かないで歌うと100%聞こえるものです。だからここはもの凄く高くてしんどいとか、よく覚えられなかったとかはクチパクにしてかまわないと思います。かえって「うろ覚えなんだけど本番だから…」とアンサンブル乱しちゃうとこまる（笑）。出ない高さを出さないで。なんとなく隣近所に引きずられて出しているじゃ、それは楽音ではありません。そこは勇気ある撤退、賢い耳を持って。…また10月にお会いしましょう。ありがとうございました!!

◆長井先生、今回もすばらしいご指導、ありがとうございました。
◆長井先生の指導はやはり気が引き締まります。自分の勉強、復習の足らなさを痛感します。自分の勉強、復習の足らなさを痛感します。教えられたようにやっていると思っていてもやっているつもりになっていることに気づかされ、まだまだと思ってしまう自分がいます。(セロ弾きのゴーシュ)
◆あいかわらず(!?)おもしろい長井先生のご指導でした。65歳なんですね〜。おわかいです。うたをうたい続けていたら、いつまでも若くていられるかしら。がんばろう。(ユジン)
◆地下、階段にてすりが欲しいです。
♥長井先生のレッスン、とっても楽しかった。お人柄も優しくソフトで、お若い。（とても65歳には見えませんです。）私はといえば2回もおさぼりしたので、口がついて行けない!（エ〜ン）
◆今日の長井先生のご指導、とても勉強になりました。楽しく分かりやすく教えていただきました。今後の練習にもつながって自分にとって有り難い1日でした。
◆長井先生のご指導を楽しみにしていました。気をつけないといけない所がいっぱいみつかってまだまだだなあと思いました。心をこめて歌えるように練習していきたいです。
◆今回はお祝い事があり遅くなりました。そのぶん頑張ります。(S.N.)
◆朝から風が強い日でした。雨がもっと欲しいのですが、今年は雨量が少ないですね。長井先生、今年もよろしくお願いします。力強いお腹にしみる指導、今年もたくさん元気をいただきました。ありがとうございました。※柳田先生の久しぶりの指導、楽しかったです。
◆金曜から明後日まだ期末テストと検定で大変ですが、頑張ります。風邪も早く治します。
◆きょうは長井先生のご指導に気合いが入りました。随分テクニックをいただきました。再確認していきたいと思います。ありがとうございました。(プンちゃん)
◆楽しく参加できましたが、自主練習をしないとついていけません。初心者なので…
◆ご指導をうけて、とてもいい発声が出来ます。先生とてもお若い!!詩がとても大切なこと、今回も確認いたしました。第九がよくわかりました。(櫻子)
◆長井先生の指導、厳しい中にも楽しさもあって、とてもすてきでした。音楽がうんと好きになりますね。
◆前回、体調が悪くて練習を休みました。次回、休まないように頑張ります。(M.Yoshimoto)
♥長井先生、お久しぶりです!相変わらず若々しく素敵な声にうっとりしてしまいました。毎年注意される事は同じなのに…反省です。(スピカ)
♥アメ、ありがとうございました!!
♥長井先生のご指導はとても楽しく有意義な練習でした。2回目でしたが、今年は昨年より内容がよく解る気がしています。(美智子)
♥言葉ひとつ一つもとても大切だなあと感じました。なんとなくではなく、きちんと歌えるように練習したいと思います。(けんちゃん)
♥長井先生の素晴らしい声にすいこまれそうでした。一度「ソリスト」でのべおか第九で一緒に歌っていただきたいものです。
♥長井先生の指導を受けられた事がとてもしあわせです。(うずめ)
♥65歳とは思えない豊かな歌声にうっとりしてしまいました。毎回、同じようなご注意を受けているのに、なかなかなおらない私です。今年こそがんばってなおしたいと思います。
♥長井先生のご指導で今日はとっても楽しく嬉しい日でした。今年は第九を夢ふくらませてうたいたいです。(アッちゃん)
♥長井先生のご指導は、とても分かりやすく、楽しかったです。先生のような有名な方に教えていただく気かいいを与えられて良かったと思います。
♥初めての人たちのためのレッスンを本当に有り難うございます。とてもわかりやすいご指導に感謝しております。
♥長井先生のレッスン、楽しかったです。（ついていけない所もあったけど）
♥長井先生のレッスン、感動しました。前回は勘違いして欠席して

しまいました。皆勤を目指していたのに残念です。気合いを入れて楽しみながら頑張ります。
♥あめがおいしかったです。(花子)
♥長井先生、お話は楽しく、よく分かった。（すこしこわい先生を想像していたのですが…（笑））
♥長井先生、いつまもでも若い。今夜は楽しいレッスン。ありがとうございました。
♥柳田先生の発声指導、腹式が出来るようになりました。有り難うございます。長井先生のご指導、毎回充実した内容で素晴らしいですね。私たちしあわせです。
♥長井先生の指導はいつもおもしろいので、これからも頑張ります!!(Kiri yan)
♥久しぶりの長井先生の指導で、あの張りのある声、明るい声は何処から来るのだろうか。また改めて発声の難しさ、正確な音とりを全般的ではなくもっと部分的に徹底した集中してやってほしいと思った。(R)
♥今年もよろしくお願いします。(すずめ)
♥入団してから何か色々と用事などで1回も参加できていなくて、今回初めての練習に参加しました。しかしカゼをひいてのどの調子が悪く、おまけに初めての参加ちうことで、全く読み方とか音とかわからず、とまどっていました。しかし練習の雰囲気はとてもよく楽しかったです。これからできる限り参加したいです。
♥長井先生のご指導が早いなあという疑問に答えていただいてありがとうございました。いつも楽しいご指導、ありがとうございます。
♥長井先生の久しぶりのご指導に原点にもどって練習出来ました。忘れないよう、しっかり練習していきます。とても楽しかったです。(ヨッチン)
♥長井先生のご指導、とっても楽しくすばらし内容でした。
♥長井先生のご指導、たのしくてよく理解できて。こんなすばらしい先生の指導をうけられる幸せに感動。
♥久々に長井先生のご指導。ますますお若く、活力的で、いつのまにか先生のペースに引き込まれて感激。昨年欠席の分を今年は倍加していこうと思います。(Hamu-Star)
♥長井先生のご指導はとてもたのしく時間があっという間にすぎました。すばらしい先生のご指導をいただく私たちはとても幸せです。今日の勉強を忘れずに練習に活かしたいと思います。ありがとうございました。
♥長井先生のご指導で初心にかえり、気が引き締まりました。
♥長井先生のポイントを押さえながらの素晴らしいご指導、とても役に立ちました。忘れる事なく次からの歌に活かしていきます。
♥長井先生のご指導でとてもしんけんに楽しく練習出来て良かったです。
♥長井先生のすばらしいご指導、ありがとうございました。先生のすばらしい声にうっとりでした。
♥長井先生のご指導で何となく信じて歌っていたところを改めて注意されて気をつけて考えながら歌います。再確認しました。
♥長井先生の素晴らしい解説入りの指導と、すばらしい声量でご指導いただき、ありがとうございました。(Y．Y．)
♥台風で不安でしたが、来てよかったです。(トラ)
♣もっと難しい
♣早々に良い勉強になりました。
♣改めて発音の難しさを感じました。
♣おつかれ様でした。出来はまだまだですが、先生の元気（パワーのある歌声）をもらって歌える様にしました。
♣土の中で地上に出ようと待ち構えている虫（蝉）がいるはずです。梅雨が明けたら元気な声が聴けますよ。長井先生、ありがとうございました。(ヒロー)
♣長井先生の指導、忘れずに。
♣長井先生、いつまでもご指導、お願い致します。(ねこふんじゃった)
♣今日も長井先生井の宝物を頂戴しました。次回を楽しみにしています。(ガマガエル)
♣昨年よりも冷静にレッスンが受けられたのでよし!!(K.C.)
♠練習に最後まで参加できないのが残念です。
♠毎回同じ事を指摘され、申し訳なく…。また頑張ります。(HK)
♠長井先生の声量、今年も感動しました。(グリーンヒル)
♠真夏日!真夏日!そして熱帯夜!今日は台風の影響で涼しかった。今年初参加です。(K.T.)
♠久しぶりの長井先生、指導、エネルギッシュな美声に聞き惚れてしまいました。
♠久々の感動です。(がみchan)
♠6月27日は忘れていて欠席しました。予定表に記帳して忘れていたのはショックでした。
♠前回に続いて時間前の練習に参加したが、練習するほどだんだんむずかしくなる。(テッチャン)

●編集後記

次回は8月1日（日）19:00～21:30

さて、前回の長井先生のご指導をいつものとおり文字にしています。また、5月9日に東京で行われた先生の退任コンサートの先生が歌われた部分は下記URLからご覧になれます。忘れないうちに復習してください。特に経験者の方々、毎回私がまとめている**記録は記憶**していただいているんでしょうか？

（http://www.coara.or.jp/~munenori/dai-9/sidou/20040704.html）【munenori@horita.jp】